



# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2003. 8月号

## 寄贈品コーナー「構之内遺跡第3地点」

期間：8月1日～9月11日

構之内遺跡第3地点は平成6年（1994）に実施され、掘立柱建物跡2棟、竪穴住居跡68軒、井戸跡4基、土坑154基、ピット396本、溝状遺構42条、土壇墓1基、集石遺構1基、道路状遺構2基、不明遺構7基が発見されました。また、遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、青磁、墨書土器、刻線土器、円面硯、朱墨の灰釉陶器転用硯、転用硯、銅印、銅か丸靱、石か丸靱、石製有孔円盤、古銭（神功開寶・隆平永寶・大観通宝・寛永通宝）、銅製品、「王」焼印、鉄製品、鉄滓、瓦、石製の玉、石製の紡錘車、砥石、土錘、縄文土器が出土しています。

本地点の最大の成果は1号道路状遺構です。調査区の南側で発見された道路は、両側溝の中心から幅を測ると9～11mとなり、極めて大型の道路になります。この大型の道路の性格は全国の類例から古代の東海道と考えられます。と同時にこの道路が構築された年代は8世紀第3四半期の遺物が出土していることから、それ以前に構築されたことがわかります。強いて言えば8世紀第2四半期まで遡ることができると考えます。この道路は第4地点の道路を含めると東に約700m延びていることが確認されています。また、1号道路に交差する2号道路は1号道路の側溝が埋没後に構築されたもので9世紀と考えられています。東海道は静岡県曲金北遺跡に次ぐものであり、古代交通を知る上で貴重な資料を提供してくれました。また、国庁（政庁）の所在地を追求する上でも大きな手がかりとなる発見と考えます。



構之内遺跡第3地点

夏期特別展「身近な地学ハイキング」の紹介

## 宝永山に登るー江戸期の宝永噴火を探るー

○コース：宝永山コース：富士宮口新五合目～宝永第1火口～宝永山

○見 所：江戸期の1707年（宝永4年）に起こった宝永噴火では、偏西風によって県内のほぼ全域に降灰が及び、特に県西部の各地に多大な被害をもたらしました。それ以来、富士山は噴火していません。3つある宝永火口を歩いて、噴火の跡をたどってみましょう。紡錘状やリボン状の火山弾、核を持った火山弾、宝永噴火のスコリアや軽石、噴火で焼けこげた炭化材、深成岩の捕獲岩、黒曜石、時期の異なる溶岩などいろいろな岩石に出会えます。宝永火口壁では、富士山が溶岩と火砕岩とが交互に積み重なった成層構造をしていることを確認でき、それを貫いた火道を示す岩脈も一見に値します。また、二ツ塚等の多くの寄生火山があり、寄生火山や噴火口の地形を観察するにも絶好です。

■富士宮新五合目の道路脇西側の露頭では富士山の火口から放出されたスパッター（粘性の低いマグマ片）が高温のため溶結し積み重なった露頭があります。東側には溶岩と基底部のクリンカー（ガサガサ部）がみられます。

■登山道新六合目付近では、溶岩流と基底部のクリンカー・火山弾などの火山噴出物がよくみられ、溶岩と火山噴出物とが交互に重なり合って富士火山が形成されていることがわかります。山体の傾斜に平行して、溶岩が急傾斜で流下した様子もわかります。この付近には、宝永噴火に由来する黒曜石片が転がっています。

■第1火口縁からは、宝永第1火口・第2火口がよく展望できます。第1火口は長径が1.4kmもあり山頂火口より大きいのです。第1火口底に降りると、宝永噴火によるいろいろな形の火山弾を見ることができます。紡錘状をしたもの、縄をなつたようなもの、リボンのようにひねったもの、芯に捕獲岩（既存の玄武岩やごま塩を呈したトーナル岩状のもの）をともなつたもの、発泡度が異なつたものなど、様々です。

■第1火口内壁では、北西側の火口壁に溶岩と岩脈が露出しているのがよく見えます。溶岩を貫いている直立した岩脈は古い時期のマグマの火道を示しま

す。これは宝永噴火のものではありません。岩脈は北西ー南東方向に平行して伸びており、3つの宝永火口の並んでいる方向、寄生火山の並ぶ方向と調和しています。この方向がプレートの押している方向で、山腹から噴火が起こる弱線なのです。この火口壁に見られる溶岩の大部分は中期溶岩とよばれますが、最上部に新期溶岩が不整合に覆っている様子が見られます。歩きにくい急斜面を作る黒色のスコリアは宝永噴火による噴出物です。

■宝永山に登ると、天気が良ければ大島や房総半島まで見渡せる壮大な展望が開けます。この山頂直下には赤褐色の火砕岩が北へ傾斜して露出しており、今登ってきた宝永噴火の噴出物とは全く異なることがわかります。この部分は赤岩とよばれ、1万年前以前の富士山（古富士）が持ち上げられ顔を出しているのです。現在の山体は全体が1万年前より新しい富士山（新富士）におおわれており、古富士そのものが見られるところは他にありません。赤岩は第2火口縁からよく見ることができます。宝永山は宝永噴火による溶岩や堆積物により作られたものではなく、宝永噴火の爆裂で第1火口の縁が盛り上がり残されたものなのです。



宝永第1火口を望む



第1火口底に見られる紡錘状火山弾

## 火星、いよいよ接近！



シジミ「いま、火星が大接近って言われているけれど、どういうことなのですか？」  
渡り鳥「火星は地球のひとつ外の軌道を回る惑星でござんす。ひとまわりの周期は1.88年。1年でひとまわりの地球は、2年2ヶ月おきに内側で火星を追い抜くでござんす。火星接近というのは、こうして地球と火星の距離が近くなることを言うのでござんす」

シジミ「なぜ『大』接近なのですか？」

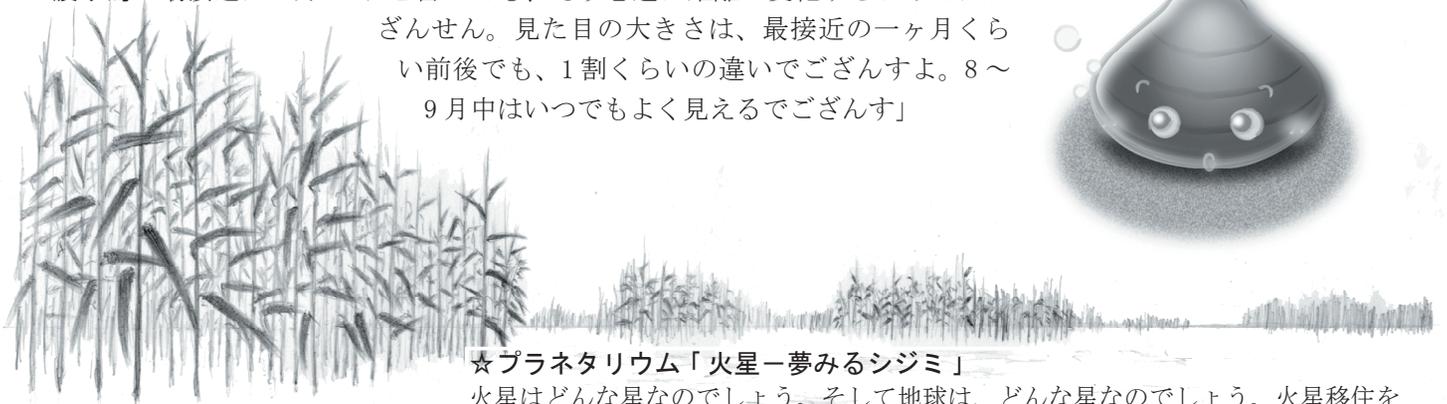
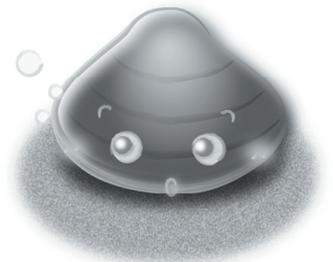
渡り鳥「火星の軌道には、太陽に（地球にも）近い部分と遠い部分があるでござんす。軌道が近づいた場所で接近になれば、平均的な接近よりも近い「大接近」なのでござんす。今回の接近は、最も近い場所で起きる「超大接近」でござんす。8月27日には距離5,576万kmまで接近するでござんす。接近でも、遠い接近は1億kmほどまでしか近づかないでござんす。火星軌道はずいぶんかたよっているでござんすね」

シジミ「火星は、どのように見たらいいのですか？」

渡り鳥「火星は小さいので、接近のときに観察のチャンスでござんす。距離が近いぶん大きく見えるでござんす。肉眼でも異様な明るさは目立つでござんす。でも、表面の観察には望遠鏡が必要でござんす。高い倍率の接眼鏡で観察するとよいでござんしょう」

シジミ「8月27日ころ見ればよいのですね？」

渡り鳥「最接近は8月27日と言っても、そう急速に距離が変化するわけではござんせん。見た目の大きさは、最接近の一ヶ月くらい前後でも、1割くらいの違いでござんすよ。8～9月中はいつでもよく見えるでござんす」



### ☆プラネタリウム「火星～夢みるシジミ」

火星はどんな星なのでしょう。そして地球は、どんな星なのでしょう。火星移住を夢見るシジミを主人公に、近年急速に解明されつつある火星の素顔を紹介します。アクアマリンが歌う番組オリジナル主題歌も、お聴きのがしのないように。  
投影日：水・木・土・日曜日の11時と14時／9月7日（日）まで

### ●夏休み企画

## 博物館ぶたいうら探検ツアー

ふだんみられない博物館の舞台裏（ぶたいうら）を学芸員が案内します。博物館にはこんなものがあるんだ、学芸員ってこんな仕事をしてるんだ・・・ぜひ参加して、いろいろな発見をしてください。

日程：8月の毎週金曜日 午後1時～3時

対象：小中高校生（保護者同伴も可）

参加自由：希望者は、当日、午後1時に博物館入口にお集まりください。

# 博物館カレンダー

## 2003年8月の行事

8	1	金	☆	寄贈品コーナー「構之内遺跡」(～9月11日) 古文書講読会	展示室 講堂
8	3	日		水辺の楽校生きもの調べの会	馬入
8	6	水	○	平塚社寺調査会 体験学習「縄文土器を作ろう」	市内 科学室
8	7	木	○	展示解説ボランティアの会 体験学習「縄文土器を作ろう」	特研究室 科学室
8	8	金	○ ○ ◎	古文書講読会 体験学習「縄文土器を作ろう」 自然観察入門講座「貝化石」 星を見る会 天体観察会(～9日)	講堂 科学室 野外 屋上 屋上
8	9	土	◎	漂着物を拾う会	虹ヶ浜
8	10	日	◎	古代遺跡を探す会 講演会「丹沢にサンゴ化石を求めて」	講堂 講堂
8	14	木		湘南コケの会	野外
8	15	金		古文書講読会	講堂
8	16	土		地質調査会	科学室
8	17	日	◎	民俗探訪会「皇大神宮祭礼」 ろばた話の会	藤沢市 展示室
8	19	火	○	体験学習「地形模型を作ろう」	科学室
8	20	水	◎	自由研究相談会 裏打ちの会	特研究室 科学室
8	21	木	○	展示解説ボランティアの会 体験学習「地形模型を作ろう」	特研究室 科学室
8	22	金	○ ◎	古文書講読会 体験学習「縄文土器を作ろう・野焼き」 火星を見る会・天体観察会	講堂 科学室 屋上
8	23	土	○	民具に親しむ会 空襲と戦災を記録する会 自然の新聞を作る会	科学室 特研究室 野外
8	24	日		相模川の生き立ちを探る会	清川村
8	26	火	◎	火星を見る会・天体観察会	屋上
8	27	水	◎	火星を見る会・天体観察会	屋上
8	28	木	○ ◎	石仏を調べる会 植物誌調査会 火星を見る会・天体観察会 古代遺跡を探す会(土器作り)	中原 野外 屋上 科学室
8	29	金	◎	火星を見る会・天体観察会 古代遺跡を探す会(土器作り)	屋上 科学室
8	30	土		地質調査会 古代遺跡を探す会(土器作り)	清川村 科学室
8	31	日	○	みんなで調べよう「セミ調べ」	講堂

## 2003年9月の行事

9	3	水		平塚社寺調査会	特研究室
9	4	木		展示解説ボランティアの会	特研究室
9	5	金	◎	火星を見る会・天体観察会 古文書講読会	屋上 講堂
9	6	土	○	夏期特別展行事「地学ハイク」	野外
9	7	日		水辺の楽校生きもの調べの会 民俗探訪会「研究発表会」	野外 講堂
9	10	水	○	博物館実習(～9月18日)	館内
9	11	木		湘南コケの会 石仏を調べる会	野外 中原
9	12	金	◎	火星を見る会・天体観察会 古文書講読会	屋上 講堂
9	13	土	☆ ◎	プラネタリウム「火星を見よう」(～10月26日) 漂着物を拾う会	プラネ 虹ヶ浜
9	14	日		地質調査会	巨摩山地
9	17	水		裏打ちの会	科学室
9	18	木	☆	寄贈品コーナー「実習生展示」(～10月30日) 展示解説ボランティアの会	展示室 特研究室
9	19	金		古文書講読会	講堂
9	20	土		天体観察会 相模川の生き立ちを探る会	屋上 箱根町
9	21	日	◎	ろばた話の会	展示室
9	25	木		植物誌調査会 石仏を調べる会	野外 中原
9	26	金	◎	火星を見る会・天体観察会 古文書講読会	屋上 講堂
9	27	土		空襲と戦災を記録する会 民具に親しむ会	特研究室 科学室
9	28	日		地質調査会 古代遺跡を探す会	科学室 野外

☆: 展示(無料)・プラネタリウム(観覧料) ○: 申込制 ◎: 自由参加 無印: 年間会員制

### ＜参加者募集＞

◎夏休み自由研究相談会  
日 時: 8月20日(水) 9時～12時 場 所: 科学教室  
対 象: 小学生・中学生 参 加: 自由

◎星を見る会「夏の星空に親しもう」  
夏の星座や二重星、月面の迫力あるクレーターなどを観察します。  
期 日: 8月8日(金)  
時 間: 19時～20時30分  
場 所: 博物館科学教室・屋上 参 加: 自由

◎火星を見る会  
大接近の火星を望遠鏡で観察します。  
期 日: 8月22日(金) 26日(火) 27日(水) 28日(木) 29日(金)  
時 間: 20時～22時  
場 所: 博物館科学教室・屋上 参 加: 自由

◎ろばた話の会  
民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。  
8月17日(日) (1)13時20分～ (2)15時～  
場 所: 展示室民家 参 加: 自由

○自然の新聞を作る会  
動植物を観察し、自然の新聞の記事を作ります。  
日 時: 8月23日(土) 13時～16時  
場 所: 湘南平子供の森 定 員: 30名  
申 込: 往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、8月15日までに博物館へ申し込む。

○博物館ふたいうら探検ツアー  
日 時: 8月の毎週金曜日 午後1時～3時  
対 象: 小中高校生(保護者同伴可)  
参 加: 自由 午後1時に博物館入口にお集まりください。

### ＜展示とプラネタリウム＞

☆寄贈品コーナー「構之内遺跡」展  
会 期: 8月1日(金)～9月11日(木)

☆夏期特別展「身近な地学ハイキング」  
会 期: 7月19日(土)～9月15日(月)  
会 場: 特別展示室

■特別展関連行事

◎講演会「丹沢にサンゴ化石を求めて」  
日 時: 8月10日(日) 13時30分～15時30分  
講 師: 東海大学付属相模高等学校 門田真人氏  
場 所: 博物館講堂 参加自由

○地学ハイキング「丹沢に海底火山の証拠を探す」  
日 時: 9月6日(土) 9時～16時  
場 所: 松田町寄沢(雨山峠登山道)  
申 込: 氏名・住所・電話・年齢を明記のうえ往復はがきで8月20日まで  
定 員: 30名

☆プラネタリウム8月の星空と「火星-夢みるシジミ」  
投 影 日: 水・木・土・日曜日(9月は土・日曜)の11時と14時  
期 間: 9月7日(日)まで

あなたと博物館 29巻 6号 通算321号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail:muse@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>